



『明石姫路間電車案内』（大正13〈1924〉年2月）

神戸市交通名所図繪

神戸市名所交通図繪

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

兵庫県南部の瀬戸内沿いを走る山陽電気鉄道は、通称「山陽電車」、略称「山陽」「山電」として親しまれている。神戸市長田区に本社を置き、設立は昭和八年六月六日である。

兵庫電気軌道の兵庫―明石間の軌道と、神戸姫路電気鉄道に由来する明石―姫路間の鉄道が、路線の母体となっている。戦前の電力会社・宇治川電気（現・関西電力）が両社を合併。電鉄部が分離独立して同社が設立された。また、昭和十六年には網干線飾磨―山陽網干間の延伸区間が全線開通し、現在の路線網が確立した。播磨の中心・姫路と神戸方面を結ぶ都市間連絡路線として成長、さらに昭和四十三年には、神戸高速鉄道を経て阪神電気鉄道および阪急電鉄との相互直通運転を開始。平成十年からは山陽姫路―阪神梅田間で直通特急を運行し、大阪方面との結び付きを強めている。

「シーサイドエクスプレス」の愛称にふさわしく、風光明媚な海沿い

藤本一美
元首都大学東京・専修大学非常勤講師。地図情報センター理事。日本地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版 2006年）、最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。



『神戸市交通名所図絵
[神戸市名所交通図絵]
(昭和9(1934)年4月20日発行)
神戸市電気局 発行
犬山の日本ライン 蘇江 観光社 印刷



山陽電気鉄道株式会社
San'yo Electric Railway Co., Ltd.
創業：明治40年7月22日
設立：昭和8年6月6日
本社：神戸市長田区御屋敷通
3丁目1番1号

兵庫県南部を東西に結び、広域な鉄道ネットワークを形成する

西代-山陽姫路間 54.7kmの本線と飾磨-山陽網干間 8.5kmの網干線、2路線を運行する。阪神電車との相互直通運転により姫路-神戸-大阪梅田間を乗り換えなしで結ぶほか、神戸高速線を介して阪急電車、神戸電鉄と接続。通勤・通学、観光地への移動手段として、兵庫県南部の交通ネットワークの一翼を担っている。

また、阪神なんば線を介し、大阪ミナミや古都・奈良へのアクセスが向上していることから、同業他社や観光協会、自治体などと連携して観光キャンペーンを積極的に展開。さらに、訪日外国人客向けの企画乗車券の発売や観光情報の発信強化など、広域な鉄道ネットワークを活かし、相互送客の活性化とインバウンド誘致に取り組んでいる。



の路線は、国宝・姫路城や須磨、明石海峡、淡路島を一望できる数多くの名所・旧跡があり、観光客にも親しまれている。

本図の構図は、まるで超広角の魚眼レンズで覗いた風景のように描写した図であり、横長左右の画面を極端に反り曲げたU字型の構図。遠景には見えないはずの富士山や東京、北海道、朝鮮を配置。方角は正確ではないが、鉄道路線の行きつく先を表す。図の中央の神戸港は、貿易港、造船、倉庫業の賑わい。港内や沖合には商船がたくさん浮かんでいる。

六甲山地を背景に東西に延びる市街地の全景を克明に見ると、立体化し精緻に描かれた有名な建物群や市電や官鉄・私鉄の色分け、通常の地図では表せない当時の「生き証人」のようである。

山上の神社仏閣やケーブルカー、電車・バス、神戸市章のマークまで描写した遊び心、桜と紅葉が同時に存在する演出には、時空を超えて人々を誘う魅力を秘めている。

初三郎のライバルだった小山吉三や金子常光らの絵師がいた日本名所図絵社印刷の作品『明石姫路間電車案内』（神戸姫路電気鉄道株式会社運輸課・大正十三年二月）があることも知っておきたい。